

職員の幸せを

職員寮（一九六七年と一九八七年）

自由に使える時間をどのように使うかによって、人生の価値は決まります。

通勤時間をゼロにして、自由な時間を増やすことは人生に大きなプラスを与えてくれるはずですよ。

更に、職住一致は、交通事故もゼロにできます。

山本病院の時代にも、病院のすぐ近くに職員寮を一九六七年に作って、職員から大変喜ばれましたので、福祉村の中にも、一九八七年に七階建ての職員寮を作りました。

一階には、みんなで利用できる多目的ホールと管理人室、そして、全くバリアフリーの障害者専用の住いを三戸作りました。

多目的ホールは、早速落成式の翌日に、「ぼけ老人を抱える家族の会」を開催し、全国から多くの会員が集まりました。

毎年のさわらび会の文化祭や、研究発表会そして、忘年会などにも、広く利用いたしました。

二階から七階までが宿舎でして、1Kが30戸、2DKが6戸、3LDKが18戸、4LDKが6戸、計60戸あります。

この宿舎の名前は、みんな仲よくと言う意味で「なかま」としましたが、建築業者に宿舎の玄関に表示するから「なかま」と書いてくれと言われて困ってしまいました。

筆を持つのは、年一回の書初めの時だけですので、何枚書いても気に入らず、ほとんど困っている所へ、次男の左近がちょこちょこ近づいてきて、私がほおり出した筆を持って、「なかま」と書きました。

なんとか上手く書こうとしていた私の字よりも、無心にさらさらと書いた左近の字の方が、気に入ったので、それを建築業者に渡しました。

現在、玄関に掲げられている「なかま」は、左近が四才の時に書いたものです。